

22春闘「第2回交渉」開催！

会社側より現状が示される

「人への投資」から「JR東日本の未来づくり」へ

3月10日（木）申第6号「2022年度賃金引き上げの要求について」2回目の交渉が行われました。

今回は1回目の組合側からの趣旨説明に対し、会社側は実質GDP成長率、景気動向指数、為替相場、消費者物価指数等の日本経済の動向と、会社の損益の推移等、客観的資料を提示し現状認識について議論しました。

会社側は引き続き厳しい現状であるとともに、中長期的に見ても新型コロナウイルス感染症がもたらした人々のライフスタイル、社会構造は感染症前の水準には戻らない認識は変わらない。さらにはデジタル技術の急激な進展により新たなサービスが次々出されている。時代の変化にスピーディーに対応できる新しい会社を作らなければならない。新たな会社を作り上げていくのは社員ひとり一人であり、構造改革を進めていく。それ以外の要求に対しても人件費に影響する。「基準内賃金の引き上げは長期にわたり総額人件費に多大な影響を及ぼすことから、足元の状況を踏まえながら中長期的に慎重に判断することが必要。賃上げについては慎重に判断しなければならない」と繰り返しました。また申し入れに対しては「真摯かつ精力的に議論を進めていく」としました。

組合側からは、「賃金引き上げは重要だ。社員への目に見える満足度を上げるためにも必要だ。変革2027への努力を評価して欲しい。労働条件の向上を図り、魅力ある安心して働ける会社にするためには後継者が育たないと会社の成長に繋がらない。厳しい状況だが先を見据えた賃上げは重要である。JRグループを含め離職率が上がっている。今ある社員への処遇をしっかりとしなければ、会社を立て直そうという気概が生まれてこない」と主張をしました。しかし、会社側は慎重な姿勢は崩すことはありませんでした。

ポストコロナ社会に向けた「変革のスピードアップ」のもと、今こそ労使が一体となり困難を乗り越えなければなりません。信頼を高め、心豊かな生活を実現し、社員・家族の幸福の実現に向け、生産性向上に見合った分配、生活の底上げ、底支え、格差是正を求めます。

2022春季生活闘争を「ONE TEAM」で取り組もう！